

「MPD SA 過去問 2014」訂正とお詫び

本書 492 頁の問題 12 (4) におきまして、誤りがありました。ここに問題 12 の (4) の問題 (492 頁) と解説 (526 頁) を以下のとおり訂正し、お詫び申し上げます。

○ 492 頁 問題 12

【訂正前】

(4)

生きていると信じ、一般人もその死亡を知り得ない状況下において、殺意をもって日本刀で胸部を突き刺したところ、実際には、相手は直前に死亡していたという事例で、**不能犯の成立を否定し、殺人未遂罪が成立する**とした裁判例がある。

【訂正後】

(4)

生きていると信じ、一般人もその死亡を知り得ない状況下において、殺意をもって日本刀で胸部を突き刺したところ、実際には、相手は直前に死亡していたという事例で、**殺人未遂罪が成立する**とした裁判例はない。

○ 526 頁 解説 12「未遂」(グレーの囲み) 下から 3 行目

【訂正前】

……殺人の不能犯と解すべきでなく」(広島高判昭 36.7.10) とした判例があり、このように具体的危険説を採ると認められる判例も少なくない(刑事資料〔平 20〕第 59 巻第 5 号 P 44～P 48)。

【訂正後】

……殺人の不能犯と解すべきでなく、**その未遂罪を以て論ずるのが相当である**」(広島高判昭 36.7.10) とした判例があり、このように具体的危険説を採ると認められる判例も少なくない(刑事資料〔平 20〕第 59 巻第 5 号 P 44～P 48)。